





各 位

サラヤ株式会社 財団法人 日本ユニセフ協会

2010年8月25日

子どもたちの命を守る手洗いを、世界に広めたい。 サラヤーユニセフ支援プロジェクト

「SARAYA 100万人の手洗いプロジェクト」 2010年9月1日より、売上*1%寄付対象製品の出荷開始

※メーカー出荷額

電子絵本やソーシャルメディアでも、途上国の衛生の問題への関心を高めていきます。

サラヤ株式会社(本社:大阪/代表取締役社長:更家悠介 以下、サラヤ)は、財団法人日本ユニセフ協会(東京/会長: 赤松良子 以下、日本ユニセフ協会)とともに、手洗い習慣の普及によって、開発途上国の子どもたちの健康と命を守る「SARAYA 100万人の手洗いプロジェクト」の売上*1%寄付対象商品を、2010年9月1日より出荷することを発表します。サラヤは、2010年から、売上の一部をユニセフの手洗い普及活動に寄付し、3ヵ年でアフリカ・ウガンダで100万人以上の住民の方々に、正しい手洗いを伝えることで子どもたちの命を守ることを目標とした活動を開始。支援対象国、ウガンダでは、手洗い設備の建設、子どもたちへの教育と自主的な衛生活動の支援、母親への啓発活動、現地メディアでの手洗いキャンペーンの展開などが実施されます。

2010年1月からは、業務用衛生事業の売上の一部を寄付し、いよいよ2010年9月1日以降は、一般消費者の皆様もプロジェクトにご参加いただけるよう、売上寄付1%対象製品を出荷開始いたします。 ※メーカー出荷額

また、サラヤは、昨年に引き続き、今年も、日本ユニセフ協会が主催する「世界手洗いの日」プロジェクトにもボランタリーパートナーとして参加。10月15日、世界手洗いの日に向けて、日本国内の、途上国の衛生の問題への関心を高めてまいります。

親子で、手で触れて、楽しみながら、ウガンダの衛生の問題を知ることができる、 無料電子絵本「太陽に、ぴかぴかの手をのばして」、10月15日(世界手洗いの日)刊行。

手で触れると、絵が動いたり、音が出たりするしかけで、ウガンダの子どもたちの暮らしや、 衛生の問題を楽しみながら知ることができる、iPad/iPhone対応の電子絵本「太陽に、 ぴかぴかの手をのばして」(文:並河進 絵としかけ:AID-DCC Inc./Katamari Inc.)を 開発し、無料で展開することで、途上国の問題についての親子の会話をつくり、関心を広げ ていくことを目指します。(詳細は、今後、tearai.jpにて、お伝えいたします。)



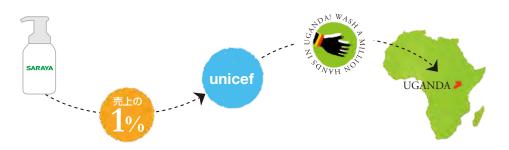
※画面はイメージです

ソーシャルメディア(ツイッター)を活用し、途上国の衛生問題への関心を高める、 「100万人のつぶやき募金」、9月1日よりスタート。

衛生の問題に関する個人の発信と意見交換を活発にするために、ツイッターを活用した企画を実施いたします。ハッシュタグ #tearaiをつけて、手洗いについて、つぶやくと、1ツイート(つぶやき)につき1円を、ウガンダでのユニセフの手洗い普及活動 に寄付いたします。(年間最大100万ツイートまでといたします)

サラヤは、1952年創業時からの変わらぬ衛生への使命感とともに、世界のSARAYAとして、衛生製品供給と社会貢献活動の両面で、世界の衛生環境向上に努めてまいります。なお、「SARAYA 100万人の手洗いプロジェクト」の進捗状況は、随時、tearai.jpで発信してまいります。

「SARAYA 100万人の手洗いプロジェクト」の仕組みと目標



「SARAYA 100万人の手洗いプロジェクト」では、2010年9月1日から一般小売される、寄付対象衛生製品のメーカー出荷額の 1%をユニセフに寄付し、ユニセフがウガンダで展開する「石けんを使った正しい手洗い」の普及活動を支援します。 以下の活動が3年間で実施される予定です。

100万人を超える母親への啓発活動

- ●40県、120万人の母親/保護者を対象として、対面での啓発活動や広報活動を行い、石けんによる正しい手洗いの必要性とその方法を伝える。
- ●40県、5歳未満児の母親45万 人が、手洗いイベントに参加する ようにする。



手洗い設備の建設

●トイレの隣で機能している簡易手洗い設備を、 合計120万基(年間40万基)、設置する。



自主的な衛生活動の支援

- ●40県13,500村を対象に研修を行い、正しい手洗いの 必要性とその方法を広められるボランティアスタッフ (手洗い親善大使)を育成する。
- ●40県の手洗い促進プログラムが、適切な技術支援を 受けられるようにする。

現地メディアでの手洗いキャンペーンの展開

●マスメディアキャンペーンを展開し、5歳未満児の母親の 40%が、正しい手洗いに触れる機会をつくる。





※過去にウガンダ国内で展開された手洗い啓発キャンペーンでのポスター例

これらの活動は、ユニセフ指導のもと、各県のスタッフやNGOがパートナーとなり、実施にあたります。3年間モニタリング・評価・調査を継続し、下痢性疾患の削減を通じた子どもの生存と発達に寄与したことを確認します。なお、サラヤは、2010年1月に先行して売上げの一部をユニセフに寄付。支援活動はすでにはじまっています。プロジェクトの現地での進捗状況は、tearai.jpで随時伝えていきます。

2010年9月1日出荷開始 一般小売のメーカー出荷売上1%寄付対象製品(消費数量連動型)



2010年1月から売上げの一部が寄付されている業務用衛生製品の事例(事業収益還元型)



郵便振替でこのプロジェクトに直接募金を送ることができます。

郵便振替口座 00190-5-31000 口座名義 (財)日本ユニセフ協会 通信欄に「サラヤ」と必ず明記ください。

※窓口でのお振込の場合は、送金手数料が免除されます。

※郵便振替での募金の場合は、(財)日本ユニセフ協会より領収書が発行されます。(財団法人日本ユニセフ協会への寄付金は、特定公益増進法人への寄付として税制上の優遇措置の対象となります。詳しくは、日本ユニセフ協会 のホームページをご覧ください)



「衛生」「環境」「健康」の3つの分野で事業展開しています。1952年の創業以来、「衛生」分野では、薬用ハンドソープ、アルコール消毒剤、うがい薬、環境消毒剤、薬剤供給機器などを製造販売し、公衆衛生から医療現場まで様々な予防衛生に貢献してきました。そして「環境」分野では、エコ洗剤の先駆けとなった"ヤシノミ洗剤"や、育児世代に高い支持をうける無添加せっけん"アラウ"などのコンシューマー・ブランドを市場展開。さらに「健康」分野では、カロリーゼロの自然派甘味料「ラカントS」、とろみ調整食品「とろみ名人」などのエビデンスのある食品を開発、健康維持にも貢献しています。

また環境経営に積極的に取り組み、2004年からは持続可能な原料調達の視点に立ったマレーシア・ボルネオ島の環境保全活動を実施しています。この国際的な取り組みは、ヤシノミ洗剤の主要原料の一つでもあるアブラヤシ(パーム油・パーム核油)の大規模プランテーションがマレーシア・ボルネオ島の熱帯雨林を破壊し、さらに生物多様性を脅かしているという現実に直面して始まりました。独自の現地調査をもとにマレーシア・サバ州政府が認可したボルネオ保全トラスト(BCT)の設立に参画、国際会議「持続可能なパーム油のための円卓会議(RSPO)」に加盟して積極的に提言しています。

また、日本国内では、2007年5月からヤシノミ洗剤の売上げの1%*でボルネオ保全トラストを支援する消費者キャンペーンを展開し、製品パッケージ、メディア、ホームページなどで活動情報を公開しています。2009年6月には国連グローバル・コンパクトにも加盟しています。ヤシノミ洗剤ホームページで情報公開しています。(http://www.yashinomi.co.jp)

日本ユニセフ協会について



財団法人日本ユニセフ協会は、先進工業国36の国と地域にあるユニセフ国内委員会のひとつで、日本国内において民間として唯一ユニセフを代表する組織として、ユニセフ活動の広報、政策提言(アドボカシー)、募金活動を担っています。 (http://www.unicef.or.jp)

10月15日「世界手洗いの日」について

世界手洗いの日は、世界の子どもたちに、正しい手洗いの方法を広めるために、ユニセフなどが中心になって、国際衛生年である2008年に定められました。世界各地で、せっけんを使った正しい手洗いを普及、促進するための活動が、様々な形で実施されています。世界の子どもたちの健やかな成長を願い、2009年から、日本でも、日本ユニセフ協会が主催となって「世界手洗いの日」プロジェクトが始まりました。サラヤは、このプロジェクトに、2009年から、ボランタリーパートナーとして参加しています。

「世界手洗いの日」プロジェクトについて、詳しくは、http://handwashing.jpをご覧ください。

内容についてのお問い合わせ先 -

サラヤ株式会社 広告宣伝部 TEL:06-6706-6116 FAX:06-6702-6632